

水葱考

2292



門二 14
2292

昭和三十二年二月廿日
高田早苗氏贈

76 了

印

水愈考



Vertical marginal text in seal script on the left edge of the page.

Red marginal text at the bottom center of the page.

水葱

水葱 のちす

和名物子唐名葱 水菜可食也楊

氏漢説物志水葱 梓一云薺菜

唐類本草類編上薺菜 和名葱支似

澤瀉花青似之

夫木難十のみ子

子 新字 瓜のり 瓜のり のり 瓜のり のり 瓜のり

瓜のり 瓜のり のり 瓜のり のり 瓜のり

瓜のり 瓜のり のり 瓜のり のり 瓜のり

瓜のり 瓜のり のり 瓜のり のり 瓜のり

瓜のり

〇 田代

延喜内膳或子供奉雜菜之水蒸
 四把唯言并。胆ミ。水蒸二段苗
 二十圓。物草功廿三人。耕他二遍。把科
 一人。馭牛一人。牛二頭。耕理平和一人。
 未夢。百新。撰匯。草功廿人。強功十五人。
 胆播。強三度十五人。度別。採功十五人。
 三度

大木若虫と。むるあ。おん。かず。おち。を
 苗は。まや。つ子。畑う。あら。いま。あら。まき。のき
 のい。うら。あら。まき。
 月六。指別。家あ。なず。中務。んと。過念。
 中務。えり。やあ。まり。んた。りの。こた。りの
 万石。

田代
 延喜内膳或子供奉雜菜之水蒸
 四把唯言并胆ミ水蒸二段苗
 二十圓物草功廿三人耕他二遍把科
 一人馭牛一人牛二頭耕理平和一人
 未夢百新撰匯草功廿人強功十五人
 胆播強三度十五人度別採功十五人
 三度

田代
 延喜内膳或子供奉雜菜之水蒸
 四把唯言并胆ミ水蒸二段苗
 二十圓物草功廿三人耕他二遍把科
 一人馭牛一人牛二頭耕理平和一人
 未夢百新撰匯草功廿人強功十五人
 胆播強三度十五人度別採功十五人
 三度

夫木君六傳也

夫木君六傳也

こなまうらわのりあのみおの杜君あき
こなまうらわのりあのみおの杜君あき

夫木君六傳也

こなまうらわのりあのみおの杜君あき
こなまうらわのりあのみおの杜君あき

曰 略也 行意

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

夫木君六傳也

夫木君六傳也

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

こなまうらわのりあのみおの杜君あき

夫木君六傳也

夫木君六傳也

夫木君六傳也

雜品

蘭

和名抄子玉管蘭也蘭似莞而細堅直為
常和名為辨色之成云踏高尻刺云

蘭... 和名抄子玉管蘭也... 踏高尻刺云

和名抄子玉管蘭也

和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也
 和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也
 和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也

菟

和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也
 和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也
 和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也

和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也
 和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也

和名抄唐語三卷
 可以為常者也
 漢語
 夫本雜之万々也

日正朝々あま

あはるをいづらんじつをいづらん
のらおれあむりこ

夫本籍十清輔

あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ

あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ

そらあ

夫本籍十清輔
あはる一ぢやあむりこ

夫本籍十信実

あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ

夫本籍十信実

あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ

あはる一ぢやあむりこ
あはる一ぢやあむりこ

あはる一ぢやあむりこ

水仙

似夢吟吟采子水仙山菊花前。群卉凋
 零花尾時律梅黃菊一般奇。而今
 牢見真君子。晚岸相依雪后枝。
 分韻梅溪真子水仙花前。凌波仙子耐
 清閑。誰應歲寒冰雪。歎無梅兄
 不同地。東荷及。會眉陽山。
 洛北曾才回。老子水仙花。一昔夜來玉亂
 鬢。氣主朋十客。問弱水汪洋。

水仙花前
 凌波仙子
 耐清閑
 誰應歲寒
 冰雪歎無
 梅兄不同
 地東荷及
 會眉陽山
 洛北曾才
 回老子水
 仙花一昔
 夜來玉亂
 鬢氣主朋
 十客問弱
 水汪洋

水仙花前
 凌波仙子
 耐清閑
 誰應歲寒
 冰雪歎無
 梅兄不同
 地東荷及
 會眉陽山
 洛北曾才
 回老子水
 仙花一昔
 夜來玉亂
 鬢氣主朋
 十客問弱
 水汪洋

三万里香月不碍但来真

空翠年年二老次韻水仙花

兼海底起紅塵又見花開水殿春

座上不須来十客祇應一笑為君新

才一吹動滄川春江玉林三友見者水

仙及只聞之什好風一陣起香霞

友東嘉谷以春故遺水仙招楚客

午懸瀟湘暮吳都有新

下學曾身木門水仙草馮夷昔降

人服花石博為水仙見韻

鐘山有詩急香解素欲頰城

梅名是并梅是兒曰春信名曰雪

中華也

宗長手記下卷下卷

神上初有いいーわう海の

大也あう

ふーいーあうあういーわう

ふーいーあうあういーわう

Vertical text in the left margin, including a red seal and characters like '水仙花'.

Red text at the bottom of the page, likely a title or signature.

の文よりして其の
ありきなりとありしは
年々のふとありけり

ありしありの流ありきとあり
いさ中事よしとありきとあり

高用集丁部の水化記

後漢三才圖會九十二の末卷に水化記南
面岸陸地民生如凉州驛州向陽

地則三四尺若不遠或夏土用中地其
根浸水物乾一宿種之則佳大抵十
一月間花近時有七八月間者蓋因
春之功也河州志紀郡每橋村出草
華紀州松江之產在早千辨者名
玉玲瓏蓋今有子華淡青色者
未見其花者凡眼科取其根細
末水飛以點突眼有效統計入眼
亦佳又傳騰瘡愈

本草綱目卷之四十一 水化記

本草綱目

大傷本草七の卷花部
 得稱雜談廿二の卷青部下
 物類稱呼三の卷のべのせん。房のせん
 んがいとを。一をなるものを金銀と
 りんがんとを玉瑠璃とを
 玉思我の三才圖會の草木三卷花卉
 部。水仙草の者名金銀草。心浮
 有千葉者。花片捲細。下輕。上淡白。此真水仙。其色若鹿

可愛山石部。何れ持上紫衣。致
 乞。与宮梅。走。等。一。其。見。重。此。草
 蔭。湯。夾。服。花。八。石。得。為。水。仙。名。河
 仙。余。家。香。雪。林。常。其。時。故。每。花
 時。芳。氣。揮。人。望。能。白。地。美。錦。余。因
 戲。自。謂。水。仙。居。上
 金。草。銀。草。中。山。信。錄。玉。瑠。璃。花。鏡。紅。水
 仙。開。元。帝。一。凌。波。仙。子。水。舞
 草。花。語。凌。波。子。名。物。以。言。雅。蒜。南。園。史。雅

水仙草
 凌波子
 名物以言
 雅蒜
 南園史
 雅

水仙草

名 事物紀原
 儼蘭 三餘記
 雪林 三才圖會
 雪中景 下字厚
 凌波客
 花鳥亭奇

秘傳花鏡云のそ子水仙一名金身之銀
 是因其性喜水故名水仙一云又云有
 單葉千葉二種單葉者名水仙其
 清香徑寸不散千葉者名玉玲瓏其
 花欲下輕盈而上淡色不作花狀
 本草啓蒙九の卷下水仙セツクニウツク下字

仁夕之 大坂 中ノタケ 房州 今ノ通名ニテ又
 云水仙單葉ノ者ハ皆六瓣ナリ而此
 時珍云尖ト云モノハ誤シリ諸書ニ多
 クノ誤ヲ載ス夕ノ廣東新説ニ六瓣
 ト云是ナリ本草ニクハ愛シテ五瓣
 ナル者ヲレバ奇品トス云々
 本草綱目卷十三ノ草部下

本草綱目卷十三ノ草部下
 水仙ノ花ハ白ク清香ニシテ
 冬ニ開クニシテ夏ニ萎ム
 其ノ葉ハ青ク長ク細ク
 如クシテ花ノ下ニ生ズ

水仙ノ花ハ白ク清香ニシテ
 冬ニ開クニシテ夏ニ萎ム
 其ノ葉ハ青ク長ク細ク
 如クシテ花ノ下ニ生ズ

此草
運
古

五辛 五辛 胡荽

群芳譜十三蔬譜一蒜一名蒜一名
 葫以味自稱中一名大蒜一名葷葷葉
 如蘭葉如杏心根如水仙味辛而氣
 而此之以為葷者唐韻云張寔為使
 西域始得大蒜初時中國止有小蒜一
 名即蒜一名亂一名藟藟雅云一名澤
 蒜為其生於野沃也又名山蒜石蒜
 為其生於山或石上也石蒜同

此草
運
古

此草
運
古

但分生於山以 呂忱字林云 略 音水中 荊
 石則荊不特生於平原及山石而又生
 於水矣 本草云別有山慈如先鴉蒜石 性辛
 蕪之數根等皆似蕪而不可食
 浸有小毒 其氣薰烈 能通五臟 逐
 諸氣 去寒 濕 辟邪 惡 消癰 腫 化癥
 積 肉食 解 暑 毒 治 瘧 疾 菜 辛 熱 氣
 氣 熱 能 助 火 傷 肺 損 目 伐 心 昏 神
 有 荊 草 受 之 而 不 知 者 隸 形 家 以
 小 蒜 大 蒜 非 芸 薑 也 胡 甘 母 為 五 薑 也

家以韭蕪蒜芸薑胡甘母為五薑 佛
 家以大蒜小蒜興渠蕪甘母蒜蔥
 為五薑 雖品名不同 其皆辛熱之物
 生食 增 毒 熟食 殺 毒 有 換 性 矣
 故 絕 之 云

同卷 蕪 譜 一 葶 苈 子 葶 苈 子 葶 苈 子
文作葶云蓋 屬可以香口 一名香豆 一名胡葶 胡葶 一名
 胡菜 亦 一種 之 葶 苈 青 而 柔 葉 細 有
 花 歧 立 夏 後 用 細 花 成 簇 如 芥 菜

胡菜亦一種之葶苈青而柔葉細有花歧立夏後用細花成簇如芥菜

花淡紫色，五月收子，如大蘇子，而辛香，子厚俱可用，生熟俱可食，甚有益於世者，根軟而白，多鬚，絲之，故謂之苜蓿，張騫得種於西域，故名胡苜蓿，後因石勒得胡，改作香苜蓿，又以苜蓿葉布教，呼為香苜蓿，味辛，氣溫，消穀，止欬，痛治血，臟補不足，利大小腸，通心脾，竅及小腹，氣按四肢，熱治腸胃，合諸菜食，氣香，令人口爽。

辟飛尸鬼，症並毒，冬者未之，香夏可食，亦可作，翅及家，且華之一，伏石鍾乳，久食，損精神，令人多忘，凡脫氣，口臭，匿，毒，胸氣，愈，瘡，久病，人不可信，同氣，蒿，食，令人汗，鼻，難產，服補藥，及，藥，中，有白木，和丹，皮，者，忌，羶，考，增，湘山錄，園，葷，即胡苜蓿也，何布種時，口誦，經，則，濕，茂，故，士大夫，以穢，諛，為，撒，園，其，也。

敬學子大成
本草綱目卷之四十一
雜考
胡苜蓿

胡苜蓿

△喜、喜言者

真淨雜著增明居士跋野萊箋
相行竟其化胡擒末，臭如羶草，
脆比松薑，肉食者諍，惟吾佛子，
致證於南，或食西域興漢，別有
種，使我疑食而疑精。

七懷香

廣群芳譜卷十三疏語一曰高香原
高香一懷香，本草云：佳倍多懷之，新種增
高香一名八月珠，原高根，深冬生，葉作
麝，肥者綠葉，五六月開花，如蛇林花，
而色黃，子如麥粒，輕而有細核，俗呼為
大高香，近通人家園圃種者甚多，
以莖葉者為第一，其他如小者名小高
香，辛平，無毒，理氣開胃，夏月祛濕。

1
本草綱目卷之八
香部
高香
高香一名八月珠
原高根深冬生葉作麝
肥者綠葉五六月開花如蛇林花
而色黃子如麥粒輕而有細核俗呼為大高香
近通人家園圃種者甚多以莖葉者為第一
其他如小者名小高香辛平無毒理氣開胃夏月祛濕

高香

辟臭。葵臭肉下少許，即不臭。臭腐入末，少許亦香。故曰茴香。**訓錄**原種**植**收時陰乾，宜向陽地，以糞土和子種之，仍種麻一六案以蔽日色。十月所生枯梢，以糞土壅根下。**訓**八角茴香**原**茴香自番舶來者大如柏實，裂成八瓣，一瓣一核，大如豆，黃褐色，有仁，味更甜，俗呼舶茴香。又曰八角茴香，產西左右江峒中，并有之，形色与中国茴香

迥別，但氣味同耳。

桂海果志八角茴

香，北人得之，以薦酒，少許咀嚼，甚芳香。

訓蒔蘿**增**原種一名蒔蘿，一名蒔蘿。

諫勅，一名小茴香。**原**蒔蘿初生，併攬

國今嶺南及近道皆有之，三月生苗

開花，其子簇生，狀如蛇床子，而短微黑

芳辛，不及茴香，善滋食，味多食，不損

健解，開胃下氣，利膈，通腸，殺瘻肉

毒，補水臍，治腎氣，壯筋骨，治小兒氣

7
蒔蘿
蒔蘿一名小茴香
蒔蘿初生併攬
國今嶺南及近道皆有之
三月生苗開花
其子簇生狀如蛇床子而短微黑
芳辛不及茴香善滋食味多食不損
健解開胃下氣利膈通腸殺瘻肉
毒補水臍治腎氣壯筋骨治小兒氣

訓

脹實亂吐逆腹冷不下食而助痞滿
忌同阿魏食有臭其味也

本草綱目卷之四
藥性論
藥對
藥性論
藥對

ムラサキ

麝香

ヨモギ

許州香

江州香

アサギ 高心(高心) 高心(高心)

人牛頭和理平和一人香

フエキ

三ノキ

カミラ

カミラ

カミラ

カミラ

カミラ

水葱

水葱

水葱

水葱

水葱

本草綱目卷之四
藥性論
藥對
藥性論
藥對

△古事記傳志麻呂。なほ。美
 り。真那と。いふ。まゝ。古事
 と。いふ。さ。い。ま。う。し。

と。考。る。氣。廻。美。板。の。美。著。や。ど。り。り。那。未
 の。事。の。生。の。奈。も。有。る。語。ん。み。ま。の。采。屬。の。奈
 の。中。の。臭。香。物。を。奈。岐。と。い。ふ。支。い。香。臭
 り。ふ。古。語。も。酒。も。香。き。の。ま。子。支。と。い。
 け。あ。い。弥。支。と。い。り。り。弥。支。の。強。い。真。の。通。き。
 弥。支。の。強。い。真。の。通。き。
 久。之。い。久。左。之。い。酒。を。久。之。と。い。は。古。事。記。應。神。の。段。徳。歌。よ。
 評。登。那。具。志。惠。具。志。和。禮。惠。比。止。新。理。ま。と。こ。も。

蘭。ア。ラ。キ
 菘。ミ。ラ。キ
 菘。キ。ミ。ラ

評。登。那。具。志。和。禮。惠。具。志。咲。國。の。り。古。事。傳。廿。三。二
 け。い。支。の。を。言。え。新。き。さ。う。竹。智。所。言。の。酒。と。よ。を。新。と
 り。め。と。し。そ。と。飲。心。の。案。の。り。り。と。い。や。れ。い。れ。い。れ。い。れ
 ぬ。後。也。古。事。記。傳。廿。一。回。三。七。七。行。月。り。い。つ。ま。ぎ。や。神。名。帳。上
 の。道。酒。司。坐。兩。殿。神。二。座。の。酒。孫。豆。男。神。兩。孫。豆。女。神。姓。氏。録。三
 右。章。皇。前。下。回。部。録。の。回。看。都。子。回。看。都。女。の。酒。水。葛。島
 水。菘。い。常。菜。の。徳。名。な。り。と。論。な。き。と。
 一。種。の。物。を。あ。り。る。水。菘。の。字。を。持。て。

カチ
視子惑つる。或古学大人との水琴
水急ぎとんたけらるる。壺よりて。或
腹痛泄瀉もいふ。若くはとあ。或
博覧多手。延喜式の方子よりして。厨
敬此調合。我れとく一人とあ。み。
烏頭クダマの毒ドクあり。孔クとく。花痛クハクや
あり。或偽ウソ字ジ先マ也ヤ。字ジの強ツヨク飲イン

ハ
ハ
の器ツクリをき。今イマの變カヘ飯イハ用ヨウ飯イハの強ツヨク
此コノものモノをシ心ココロにニ入イるル。そノをシ好ヨク食クしテ腹ハラをシ損ツク
借カしテありシ。同ドウ日ニチの談ワタシし。
ひづヒてテ一ヒト家カをシてテ学ガク者ノ備ヘ因インの我ガ
慢マンしテ。事コトをシあヤすル。見ミ識シ
鳴ナびシ。主ヌシ術シユツ后ゴ道ダウの
字ジ一ヒト方カタとシ。字ジのたタまマ。字ジのたタまマ

延喜大膳式下七奇區圖
 延喜大膳式下七奇區圖とを
 延喜大膳式水鏡三圖とを
 延喜大膳式水鏡三圖とを
 延喜大膳式水鏡三圖とを

下とつらつら... 延仁天皇の御方 古尋ノ須
 須許理... 真酒... 酢... 許...
 那具志... 酢... 水... 延喜...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...

古今三才... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...

延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...
 延喜大膳式水鏡三圖... 延喜大膳式水鏡三圖...

本末地水田書

曼善新とも。年芥新とも。いり例

水田より水とてつけんい。理よとて

たり。ささい水作の水急。まらたをい。

水急。まらたをい。

○延善内膳式。供奉。箱菜。水葱。

四把。准。四升。五。き。水葱。一段。田二

十園。物。功。廿三人。耕地。二遍。把。和。牛

同上。二把。准。二。田。正。四。
五。九。十。三。月。と。あ。い。ん。
き。る。え。ん。水。急。と。う。り。と。
の。書。き。し。り。

一人。取。牛。一。人。牛。一。頭。料理。平和。一人。書

而。二。十。撥。運。功。廿。人。強。功。十。五。人。月

播。種。三。度。十。五。人。度。別。株。功。三。度。十。五。人。

治。拾。遺。物。記。卷。二。の。子。清。徳。聖。三。と。西。京。下

水。急。最。多。ヤ。オ。ヒ。下。わ。り。け。り。風。田

下。り。物。最。欲。かり。け。り。を。り。か。り。え

さ。あ。る。と。し。ぬ。の。男。子。年。七。と。い。い。最

名新抄 信上巻
 下正 50 取 キ
 ナー ミラ ヒル ツキ 下ア ミ
 冬 ミラ フ ミ 水 ミ ナ ミ ナ ミ
 カ ミ ナ ミ ナ ミ ナ ミ ナ ミ

世 信 世 信 世 信
 次 信 次 信 次 信
 同 信 同 信 同 信
 撮 信 撮 信 撮 信
 類 信 類 信 類 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信

今 信 今 信 今 信
 今 信 今 信 今 信
 今 信 今 信 今 信
 今 信 今 信 今 信
 今 信 今 信 今 信

野 信 野 信 野 信
 野 信 野 信 野 信
 野 信 野 信 野 信
 野 信 野 信 野 信
 野 信 野 信 野 信

子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信

子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信

子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信
 子 信 子 信 子 信

延喜式... 延喜式... 延喜式...

久しし和名... 久しし和名... 久しし和名...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

の... の... の...

貴... 貴... 貴...

か... か... か...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

の... の... の...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式...

傳玉篇 中卷 艸部 子 穀 ナキ 三 類聚名新

柳信上卷 艸部 穀 ナキ 二 穀 菜 三 穀 二餅 菜 生 水

云 古訓玉篇 ナキ 二 穀 菜 生 水 三 穀 中者

穀 ナキ 水 京 官 者 難 字 記 二の卷 子 苾

カ 利 ナキ ア 三 三 一 一 穀 ナキ 三 一 一

穀 ナキ 三

古訓玉篇

大廣益會玉篇世老

二 苾 ヤニキ 音 格 切

○ 道 側 於 切 不 世 夕 三

○ 穀 ア サ 羊 三

○ 薺 カ 三 三 一 撮 懷 身

下 卷 菜 二 苾 和 名 三

薺 和 名 一 三 蘭 三 同 卷

菜 教 異 三 苾 ア サ 羊 三

和 名 一 同 藜 月 同 胡 苾 三

難 字 記 二の卷

蕪 三 三 一 蓐 三 三 一

傳 玉 篇 中 卷 一

蕪 三 三 一 蓐 三 三 一 蕪 三 三 一 蓐 三 三 一

一 菊 ノゲシ ノゲシ 一 瓜 ウリ ウリ 子 コ 瓜 ウリ 一

一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一

一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一

一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一

一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一

一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一

一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一

一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一 胡 コ 一 蒜 ニンニク 一

一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一 瓜 ウリ 一

三ノ部上ノ行 澤 蒜 ネヒル 嶋 蒜 アサツキ 各 七 七 介 三

和名雑草考

五十年

和名雑草考

考名和名
一名興集一名信馬トア

津石舟上純才

○下子良身

下子良身 木門

カキルノキ 大蒜若葱 薤葱ノ解

薤葱ノ解

以上五葉也 薤葱不知何草 或云菖蒲 或云大根 雖有諸注未分明也

○十意雜草追加

○車箱

○葦中折

下子良身 以書至富所

○合新解

○口良解

○口折

○秋口要記

中子良才

○珠林 百三十一

修名抄子身

口字の修、股声、芳字七、献語、蒜字は、大蒜、玉華、之一、小蒜又玉華也。

定秋ト云ハ宝珠形ノト忽年形ノト款聚雜字下標

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.



小抄の口字と修
小抄の口字と修

修名抄子身	口字の修	股声	芳字七	献語	蒜字は	大蒜	玉華	之一	小蒜	又玉華也
定秋ト云ハ	宝珠形ノト	忽年形ノト	款聚	雜字	下標					

一、梅酒の類...
 此類は、梅の花や葉を...
 入して醸造するもの...



評登那具志... 和酒志具志...
 生酒成神二産の酒...
 酒水の濁を真香水と云ふ...
 茶田... の支け... 水...
 は葦菜の總名...
 の物と云ふ... 水... の字... 著...

志以奉... 榊...
 とも... 榊... とも... 榊...

一、梅酒の類...
 一、梅酒の類...
 一、梅酒の類...

水葱 中名三叶葱 辛菜
 五葉之一也 水葱 涼菜 末註
 涼菜葱也 又水葱 辛菜 一名辛
 菜 生於水中 或淡於水 序
 六典 載 辛菜 即 水葱 永葱
 蘇 氏 領 又 置 辛 一 名 水 葱
 水 葱 一 名 水 葱 永 葱
 水 葱 一 名 水 葱 永 葱

水葱 救急本草 卷の生水邊
 及水中科而彷彿類家而極細
 長稍頭結骨莖彷彿類而極細
 小開鱗白花其根類葱根皮色紫黑
 根而俱味可微鹹救飢採嫩而連根
 棟搗洗淨煤熟水浸淘淨油鹽識
 驗之云云 唐書 地理志 2 登州 東 牟

郡中 都督府 土貢 賞布 水葱 席石
 器 文 槍 牛 齒 牙 下 總 國 葛 西 島 東 の 境
 井 今 の 江 川 地 古 井 河 水 葱 有 一 指 地 名
 揚 氏 漢 語 鈔 水 葱 一 名 水 葱
 奈 木 一 名 水 葱 一 名 水 葱 一 名 水 葱

類聚名
物ノ名
ハヤシノ
葉ノ
ニシテ
冬ノ
枯レ
テハ
木ノ
中ニ
存ス
ルニ
由リ
トシテ
冬ノ
枯レ
ル
木
ノ
名
ナリ
トス
ル

類聚名
木ノ
名
ナリ
トス
ル
冬ノ
枯レ
ル
木
ノ
名
ナリ
トス
ル

萬大の安火味は偽議すし。臭菜

の總名はニシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

は即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

木ノ名トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

種ノ
名
ナリ
トス
ル

俗名ハ葉菜トシテ唐韻ニ葱葉菜トシテ本

草トシテ葱ハ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

ハ即ニ葱トシテ其ノ中ニハニシテ殊ニ葱ハ其ノ中ニハ

種ノ
名
ナリ
トス
ル



種ノ
名
ナリ
トス
ル

類聚行宣抄卷之五
 九年三月廿一日
 多の字指芥は 水左衛門親正
 下ま考ふべき 水左衛門親正
 之は 兼光 兼光 兼光
 合ふと 水左衛門親正
 の腹 兼光 兼光

集中別行書云云此土唯有四三

葱云々 延喜内膳式子葱二把 唯一并正

四九十九 上 三月

万安方 照は鏡巻下

頓書抄 卷第部 子葱 葱 葱

也。葱白の冷也云々 生はるが 合テ不食

腹痛ヲ作ス生はるが 難矣ヲ不可食 病成ス

海人海芥 下 葱ハウツホ号如此

夏名ヲ被付近比、お軍家ニモ女房庭に有

夏名ヲ申ス 葱 下巻菜 子葱 葱

葱同字云々の倭王篇 中巻 葱 淡アララクロ

ヒトモシ 葱 古訓王篇 葱 且ま和ヒトモシ

葱 同上云々の葱用字 葱 葱

同云々の 葱食禁好 葱 葱 葱

りあししそ^{オナキ}菜葱としつたる[。]。ちと[。]り
 りあしそ^{イシヤウ}買名[。]り[。]と[。]依[。]ま[。]わ[。]ぎ[。]と[。]あ
 或[。]説[。]子[。]子[。]ぎ[。]と[。]あ[。]根[。]と[。]あ[。]あ[。]ん[。]て[。]い[。]説[。]し[。]
 根[。]い[。]ら[。]ん[。]ん[。]の[。]白[。]き[。]あ[。]さ[。]ら[。]あ[。]に[。]依[。]ぎ[。]い[。]た[。]
 ぎ[。]の[。]轉[。]詰[。]こ[。]し[。]も[。]。あ[。]の[。]別[。]の[。]の[。]話[。]と[。]い[。]ら[。]り[。]
 ち[。]ど[。]あ[。]る[。]説[。]し[。]の[。]地[。]考[。]合[。]や[。]ん[。]と[。]し[。]。奉[。]政[。]
 内[。]膳[。]式[。]の[。]儀[。]考[。]雜[。]菜[。]の[。]水[。]葱[。]

四把[。]准[。]四[。]并[。]五[。]。云[。]。一[。]。奉[。]永[。]葱[。]一[。]段[。]由[。]二[。]
 十圓[。]惣[。]單[。]功[。]五[。]十三[。]人[。]耕[。]地[。]二[。]遍[。]把[。]犁[。]
 一[。]人[。]馭[。]牛[。]一[。]人[。]牛[。]一[。]頭[。]押[。]理[。]平[。]和[。]一[。]人[。]費[。]
 百[。]二十[。]擔[。]運[。]單[。]功[。]廿[。]人[。]強[。]功[。]廿[。]五[。]人[。]月[。]
 播[。]強[。]三[。]度[。]十五[。]人[。]及[。]別[。]功[。]十五[。]人[。]度[。]三[。]云[。]。
 同[。]式[。]の[。]二[。]把[。]准[。]一[。]并[。]五[。]の[。]十[。]上[。]の[。]子[。]に[。]依[。]て[。]播[。]種[。]物[。]
 三月[。]と[。]あ[。]る[。]方[。]に[。]依[。]て[。]是[。]の[。]儀[。]考[。]を[。]し[。]る[。]に[。]依[。]て[。]最[。]後[。]
 諸[。]卷[。]の[。]子[。]に[。]依[。]て[。]最[。]後[。]

三の 大伴駿河麻歌の

春霞春日里命殖子水葱苗有踏

三所柄者指尔家年小葱を少かすたんと

今何侍をいぬたすまこしのうらみうらみ歌は詩多殖

一ものまらるるの意なること熟なり上り葱

華の秋ある御連つをソウクワノ御連つ又

ナギノ花ノ所連つとらるること

枕草子 春曙お土津の木の尻に横ひ

國の春えありかけんこ

てしけもみをやななのあのこ

まなるいとなをやらら延喜内色

式の御連一具を花等料概十三

枚を世依侍厚叙を巻終連終下次宿覆

雨皮以了出鳳也葱花同之云下浮野行

△西宮記 臨時部八尋
昔九月九日御連
傳自餘部ニモ事連

頭の飾カサに珠タマを置オケみ或ナ珠タマ蓮フタ花ハナの形カタに似ニた
 るものありし云々又云鳳ホウ琴シン蓮フタ花ハナの形カタに似ニた
 天子テン常ジョウ衣イ御ミ入イ聲セイ屋ヤ上ウエ鳳ホウ作ツク置オケる
 是コトヲ鳳ホウ琴シントカラス神ジン事ジノキ御ミ入イ聲セイ
 屋ヤ上ウエ蓮フタ花ハナヲツク置オケる是コトヲ蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 云ク蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた云ク蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 上ウエ尖ササりタルモノ也ナリ即ス橋ハシノノ欄ラン干カンノノギギトシテ

形カタニ同トウ何ナニ故ユ蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 屋ヤ上ウエ只ただ屋ヤ上ウエノノ飾カサに珠タマノノ形カタに似ニた
 珠タマノノ上ウエ尖ササりタル蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 是コト也ナリ或ナ人ヒトノノ衣イ御ミ入イ聲セイ屋ヤ上ウエ蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 是コト故ユ蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた屋ヤ上ウエ蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた
 作ツクルル蓮フタ花ハナノノ形カタに似ニた是コトヲ理リ説セツ此コノ国クニノノ形カタに似ニた
 是コトヲ理リ説セツ此コノ国クニノノ形カタに似ニた是コトヲ理リ説セツ此コノ国クニノノ形カタに似ニた

佛家三禁スル也。華ノ世一ナシ。天子乘
御ノ聲ニハ用フベカラサル理也。如此ノ理ニハ抱
ハルナ知唯珠散ノ蔥花ニ似ル故ニ名
付花ノ也云々。内秘録卷ノ也。世嘉式子
蔥花散と云いキバウシのりし云々。花散子
珠のりし物あるよりん。橙干の金物
其散何と云い葱花と云い葱花散と云い。又疑

法神よと云し云々。此の増補下等集并本
後ノ葱花多し云々。内宮長所送官符
キハシト云い。正殿登橋男柱葱花散金貳に云い。
齋居通卷上。内宮年中行事。御饗
紗殿下位道。東男柱。西御道。衆祝
詞讀道。外宮。應永送官符。曰御橋
開柱貳本葱花散貳枚。此正殿御

階高欄ノ左右南端ノ柱ヲ男柱ト云男
 柱ノ頭ヲ果ム金具ヲ葱ト云。神代
 卷上曰取湯津ノ柳牽折且雄柱。
 雄柱男柱相同シ。倭名類聚ノ雄柱
 十の考。曰楊氏漢詔云葱。比良政ノ橋
 兩端所登之柱。其頭似葱花故云大
 鏡。ニの考。昭曰地川院。北ノイトイモシキ也。
 宣云の傳

大鏡ノヲリノ殿ノ御車ノ立ヤウボトノ尊
 者ノ御車ハ川ヨリ東ニタテ牛ハハシノヒ
 ラキバシラニ牽キキ。是階モ限ラズ橋
 ニモ又御連ニモ有キ。願ニ葱花ノ形ヲ居ル
 モ。此の葱ハ草ト云キハ葱也。ヒラキハ用葱ハ
 ニテ。葱ハ草ト云キハ葱也。故ニ葱ト云キハ
 草ト云キハ我也。俗ニハ帽子也。帽子ハ

三ノキハ葱ハ草ト云キハ葱也。

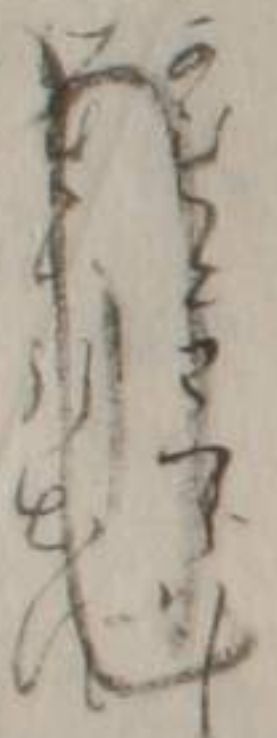
とほは... 橋... 高... 擬宝珠...

頭ニ... 似... 云... 擬宝珠...

ア... 一...

路... て... 判... 花... 用... 玉... 一は...

の如くも舊唐書禮儀志二 禮聖元年正月丙申夜佛堂災延燒明堂三 則天聖テ 依舊規制テ 重造明堂上 凡高ハ 二百九十四尺東西南北廣三百八十二施ニ 寶鳳儀 以テ 珠代 之ニ 新唐書南齊傳下 台城國の 亦ハ 負觀所 王頭黎獻割 豕鏐鎖上 色帶朝霞布火珠一 又

馬礼 目の 亦ハ 火珠大 者如 雞卵圓 白燦 教人 日中 以テ 艾藉 珠輒 火出 之ニ 杜氏 通典 百六の卷 林邑國の 亦ハ 獻火 珠形 如水 精日 正午 時以 珠承 影取 艾衣 之火 見云 得之 於羅 刹國 云一 齊書  明一 統志 九十の卷 台城國之 亦ハ 朝雨 殿火 珠大 如雞 卵狀 數水 晶一

當年置日中以艾藉之輒火出本
草綱目石部水精の字に火珠時珍

与水精對云

此外屋上の言の所
こいよるをいふ

は發に 乃こえ和名物 玉部と火精

并名苑云火珠一名瑠璃 火精也和名

此止出大萬字 類聚名新物 玉部と火

